

■児童・生徒の学力の状況

○学習に真面目に取り組む児童が多いが、基礎的・基本的内容の定着に差があり、互いに考えを話したり、伝え合ったりする活動でも個人差が大きい。
○本年度の「全国学力・学習状況調査」や校内で実施した実態調査の結果から、国語の言葉の特徴や使い方の領域、情報の扱いに関する領域において、更に定着を図っていく必要がある。また、文章を読み取る力に課題があり、個別に支援の必要な児童も見られる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○個別最適な学び・協働的な学習に取り組んでいるが、自分の考えに自信をもてない児童もあり、全体での話し合い活動が十分にできないことがある。
○自分の考えを文章や図などで表現することに課題があり、書かせる活動を充実していく必要がある。
○タブレットPC等のICT機器を活用しているが、さらに機能を活用した授業ができるよう、教員の研修と実践を深めていく必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○板橋区授業スタンダードを徹底し、児童に基礎的・基本的な学力の定着と思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
○板橋区授業スタンダードSの推進に取り組み、教師が児童の実態に合わせて学習形態を選択し、児童が自分に合った学習内容、方法、ペース、順序を自己選択して学ぶ場面を設定することで、「個別最適な学びと協働的な学び」を追求していく。
○「読み解く力」を高め、一読して書かれている内容を正確に理解し、正しく回答できるようにしていく。
○総合的な学習の時間の充実に努め、各教科等の学びをつなげられるようにする。
○すべての授業で、自分の考えを文章で表現（書くこと）する活動を取り入れ、その考えを交流（話すこと・聞くこと）する活動を行っていく。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底	視点2 板橋区授業スタンダードSの推進	視点3 読み解く力の育成
○「質の高いめあての提示」→「自力解決」→「対話的な学び」→「振り返り」という学習の流れを定着させる。 ○「振り返り」は各自にとってのポートフォリオとなるようにしていく。	○校内研究を通して板橋区授業スタンダードSについて教職員が学び、児童が自分に合った学習内容、方法、ペース、順序を自己選択して学ぶ場面を設定する。	○基礎的読解力の6分類等の明確な視点をもって教科書等を読み取る場面を設定する。INPUT→THINK→OUTPUTが授業の中に設定する。特に子どもが主体的にOUTPUTする場面を設定する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○文章の仕組みや意味を正しく理解するために必要な「基礎的な読む力」を測るテストを第6学年児童で実施し、その結果を踏まえ、イメージ同定など6つの分類に着目して指導方法を工夫・改善する。 ○児童に語彙力を付けるため、授業の中で意味理解が十分でない語句について適宜確認するとともに、読書を奨励して文字に触れる機会を増やす。（読書旬間の設定、学校地域支援本部の読み聞かせ活動等）	○各教科等との関連を図り、体験や交流を中心とした活動や協働的な学習を通して、児童の社会性や思考力・判断力・表現力を養う。 ○茶道、落語などの日本の伝統文化を体験する学習を行い、その素晴らしさを感じ取らせるとともに、「伝統文化とは？」「伝統文化を繋いでいくには？」など探究的な課題について考えさせていく。	○電子黒板、タブレットPC等のICT機器を授業で積極的に活用することで、児童の学習意欲を高め、個別最適な学び、協働的な学びの実現を目指していく。 ○問題解決的な学習や協働学習などを通して、「主体的・対話的で深い学び」を進め、自ら調べて考え、表現する力を伸ばすとともに、自分の考えをもち、伝えながら他人の考えを傾聴する児童の育成を図る。